

子どもの日本語教育研究会 第11回大会2026.2.28 ポスター発表【実践報告】

発表NO.17



外国人児童生徒等の日本語指導に関するオンライン研修 —資質・能力の「豆の木モデル」にもとづく研修デザインの提案—

研修テーマ

「2025年度 研修B 幼・小・中・高の学びの連続性を保障することばの教育」

谷 啓子・齋藤ひろみ・工藤聖子・稲田直子・小西円(東京学芸大学)

本発表の構成

- 1 発表の背景と目的
- 2 研修について
 - (1)研修の概要 テーマ・内容・事例報告・講師等
 - (2)目指す資質能力
 - (3)参加者の背景
 - (4)各回の構成
 - (5)研修内容と資質能力の関係
 - (6)グループワークの具体的なタスク
- 3 研修の成果
 - (1)アンケート結果から
 - (2)「豆の木モデル」に基づく研修の可能性

1 発表の背景と目的

- 現状
- ・各地で子どもの日本語教育担当者・支援者向けの研修
 - ・オンライン研修も増加
 - ・一方で、オンラインの特徴を生かした研修の検討は不十分

- 発表者ら(本ユニット)が実施したオンライン研修
- ・2023年度～、年3回、日本語指導初任者向け
 - ・外国人児童生徒等教育を担う人材の資質・能力モデル「豆の木モデル」(日本語教育学会2020)による資質能力の設定・内容構成の設定

本発表の目的

2025年度の研修を中心に研修の企画・実施の実相を報告し、「豆の木モデル」に基づく初任者向けオンライン研修のデザインを提案する

*本ユニット → 東京学芸大学先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育ユニット
令和7年度 オンライン研修「多様性が活かせることばの教育」 幼・小・中・高の学びの連続性を保障することばの教育

2 研修について (1)研修の概要 テーマ・内容・事例報告・講師等

第1回 6/8(日) 子どもの持てる力と経験を新たな学びにつなぐ～初期

・講義「来日直後の受入れ体制と初期日本語支援」 谷 啓子(東京学芸大学)

・事例報告「‘学びの連続性’と‘自分らしく’

～小学生と中学生が一緒に学ぶ『みらい西』の事例より～

坂柳言衣(豊橋市市立羽田中学校／豊橋市豊橋初期支援コース「みらい西」)

経験の短い参加者に、日本語を学ぶ子どもたちの状況、現場や実践について、理論背景+具体的なイメージをもって実践的な理解を深めてもらうよう構成

第2回 7/6(日)探究する力・自律的に学ぶ力を高める～日本語と教科の統合学習～

・講義「成長段階に応じた学ぶ力を高める日本語と教科の統合学習」 見世千賀子(東京学芸大学)

・事例報告①「ことばの力で学びをひらく～にじ「浜北教室」における日本語と教科の統合学習～

佐々木しのぶ(浜松市立浜北北部中学校／初期日本語指導拠点校にじ「浜北教室」)

・事例報告②「在籍学級の学習活動につなげる日本語指導

～光村図書2年(上)「たんぽぽのちえ」におけるJSLカリキュラムの考えに基づく授業実践～

田中寛子(目黒区立東根小学校日本語国際学級)

第3回 8/3(日)アイデンティティと関係づくりを支える～ことばの教育実践を通じて～

・講義「ことばとアイデンティティについて考える～長島先生のライフストーリーをもとに～」

米本和弘(東京学芸大学)

・事例報告「教員としての考え方と実践の共有」 長島ヒデキ(岐阜大学教育学部附属小中学校)

準備段階で
企画側と事例報告者が
テーマ・資質能力を
意識的に共有

(2) 目指す資質能力

広報の段階でHPにて各回で
「目指す資質能力」を明示

第1回 6/8(日)

子どもの持てる力と経験を新たな学びにつなぐ
～初期支援と活動のアイデア～

112人

第2回 7/6(日)

探究する力・自律的に学ぶ力を高める
～日本語と教科の統合学習～

116人

第3回 8/3(日)

アイデンティティと関係づくりを支える
～ことばの教育実践を通じて～

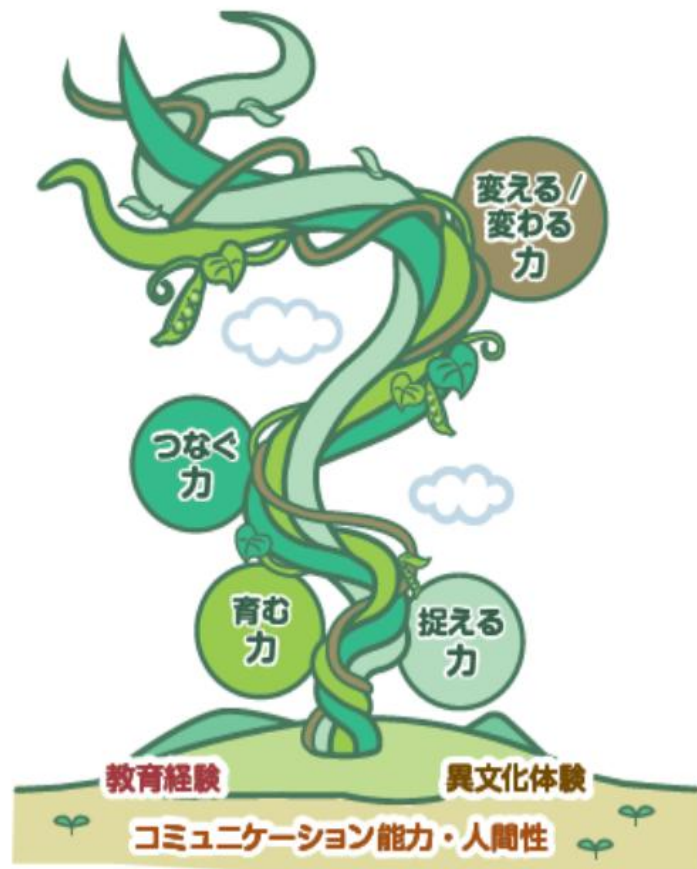
100人

【捉える力】「子どもの実態の把握」ア
【育む近力】「日本語・教科の力の育成」ケ・コ
【つなぐ力】「学校づくり」テ

【育む力】「日本語・教科の力の育成」
コ・サ・ス・セ

【捉える力】「子供の实態の把握」イ
「社会的背景の理解」ク
【育む力】「異文化間能力の涵養」タ・チ

参考：豆の木モデル

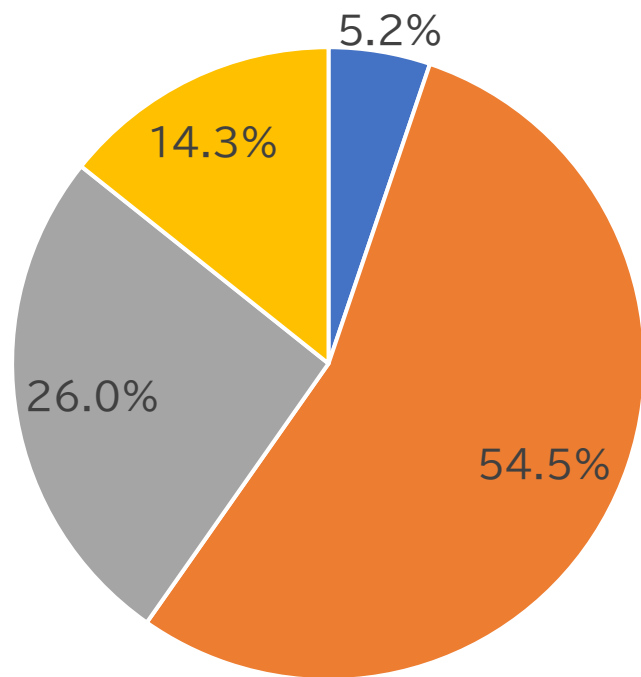


教育経験・異文化体験・コミュニケーション能力・人間性等を土台に、「捉える力」「育む力」「つなぐ力」が相互に関わりながら実践を動かし、「変える／変わる力」がそれを推し進める

資質・能力の4要素と課題領域		求められる具体的な力
捉える力	子どもの実態の把握	文化間移動と発達の視点から、外国人児童生徒等の状況を把握することができる。
	社会的背景の理解	外国人児童生徒等の背景や将来を、社会的、歴史的文脈に位置付けることができる。
育む力	日本語・教科の力の育成	外国人児童生徒等の実態等に応じ、言語教育に関する専門的知識に基づいて、日本語・教科の教育を行うことができる。
	異文化間能力の涵養	外国人児童生徒等と周囲の子どもとの相互作用を通して、双方に異文化間能力を育てることができる。
つなぐ力	学校づくり	保護者や地域の関係者と連携・協力して、よりよい支援、教育のための学校体制をつくることができる。
	地域づくり	異なる立場の人々と協働しながら、学習環境としての地域づくりをすることができる。
変える／変わる力	多文化共生社会の実現	社会的正義と公正性を意識し、多文化共生を具現化することができる
	教師としての成長	外国人児童生徒等に関する教育・支援活動を振り返り、自己の成長につなげることができる。

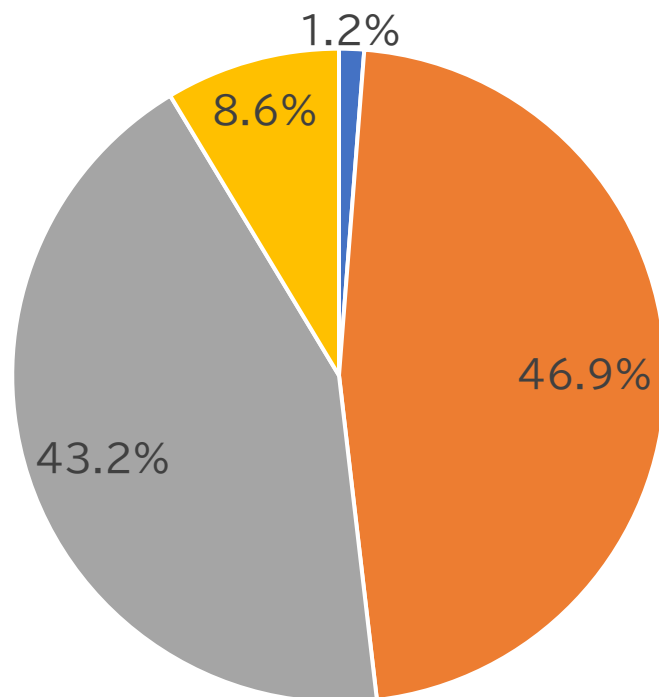
(3)参加者の背景(経験年数)

第1回



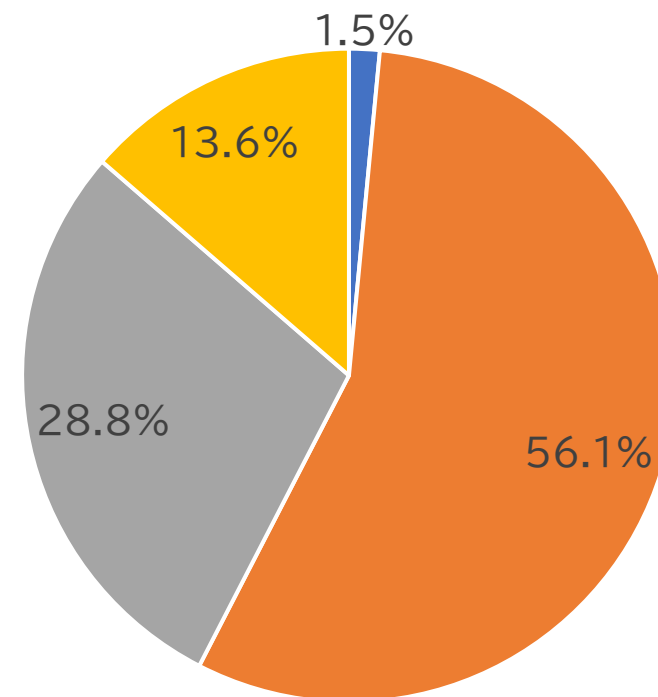
- 経験なし
- 3年以下
- 4年~9年
- 10年以上

第2回



- 経験なし
- 3年以下
- 4年~9年
- 10年以上

第3回



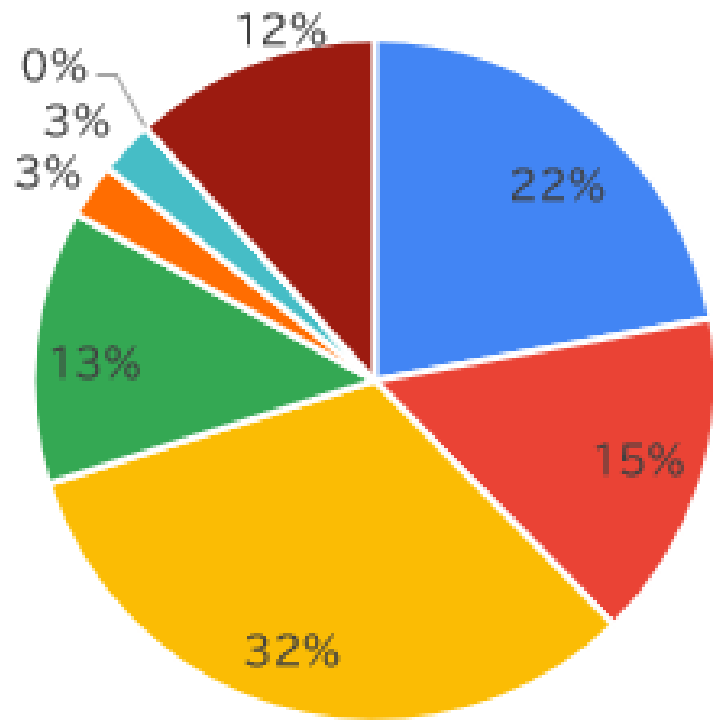
- 経験なし
- 3年以下
- 4年~9年
- 10年以上

第1回:参加申し込み数:128 当日参加者数:112 アンケート協力者数:77(回収率69.4%)
第2回:参加申し込み数:135 当日参加者数:116 アンケート協力者数:81(回収率69.8%)
第3回:参加申し込み数:111 当日参加者数:101 アンケート協力者数:66(回収率65.3%)

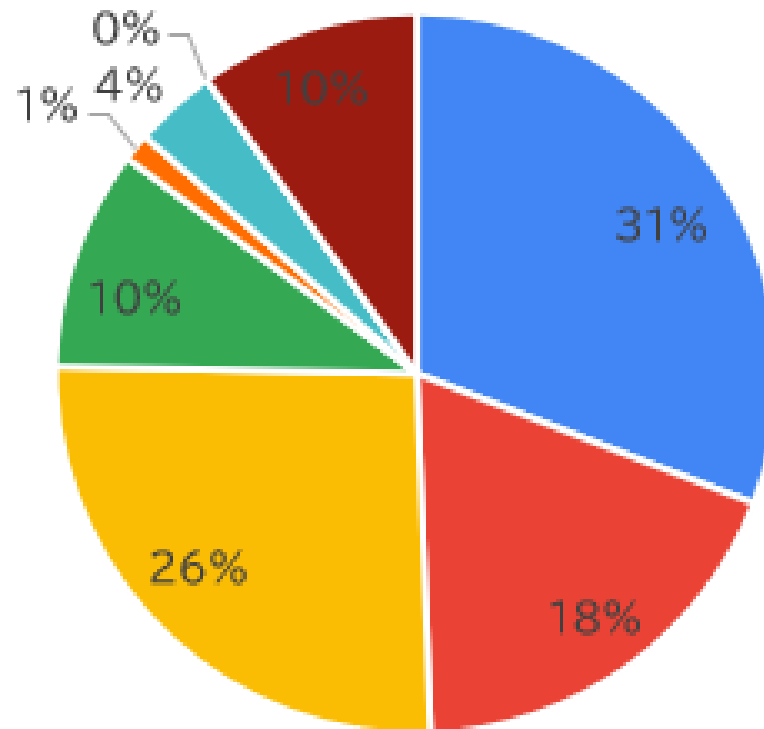
(3)参加者の背景(立場)

- 教諭
- 講師
- 指導員(教育委員会等から学校へ派遣されて指導している)
- 地域支援者
- 行政関係者
- 大学教員
- 学生
- その他

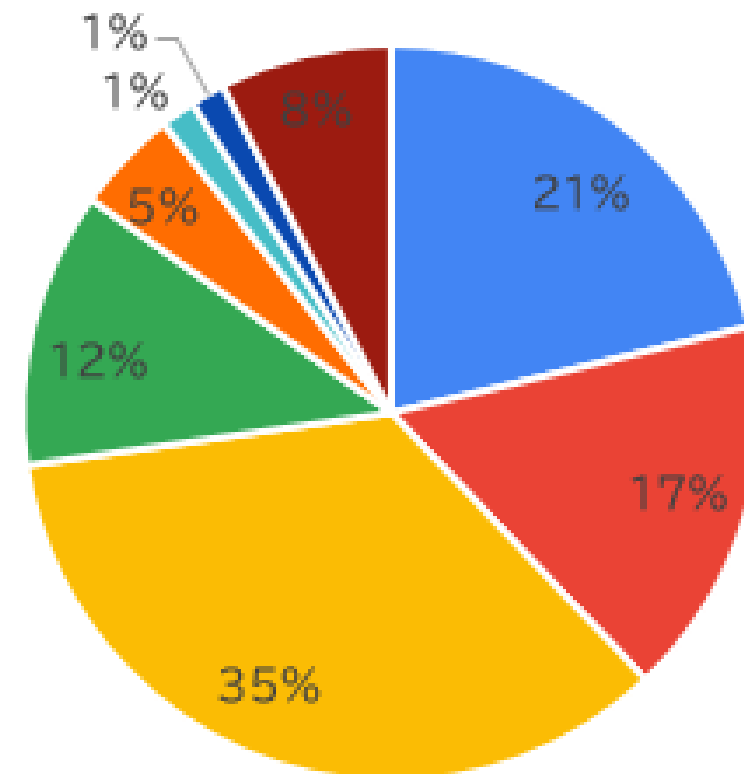
第1回



第2回



第3回



(4)各回の構成

事前動画視聴 20分

.....

趣旨説明 10分

講義 30分

冒頭で
目指す資質能力の提示

事例報告 50分

〈休憩〉

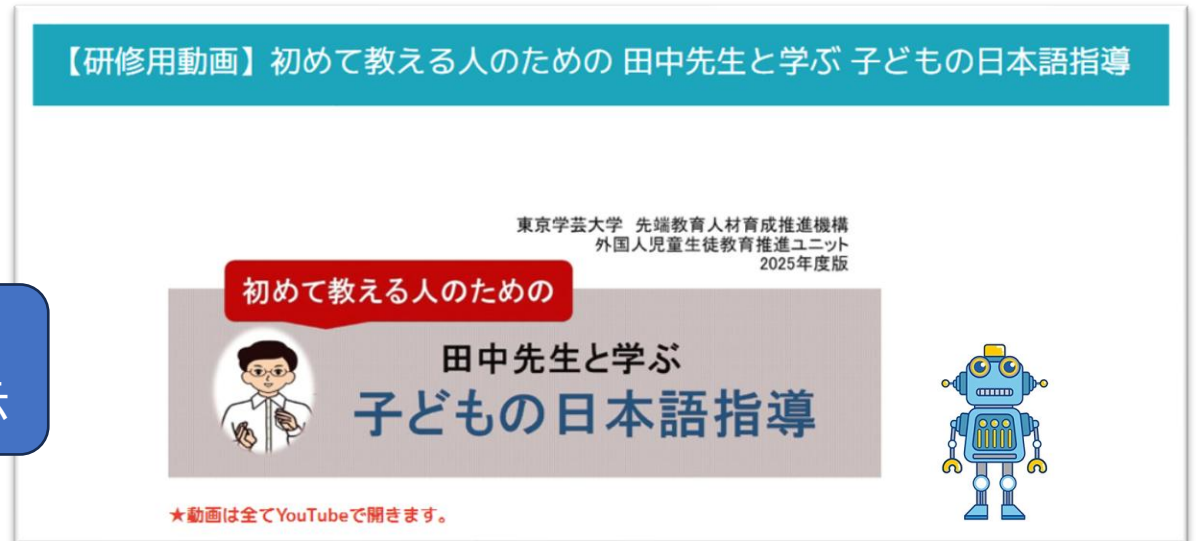
テーマに関するグループワーク 40分

全体共有 10分



アンケートによるふりかえり

目指した資質能力が
高められたか？



(5) 研修内容と資質能力の関係

在籍校とのかかわり(金曜日の在籍校登校)

①木曜日に準備→②金曜日の登校→③月曜日に振り返り



ミッション ポッシブル

Mission possible		
1	/	日記の書き方
2	/	きょうしつ
3	/	きょうしつのかき
4	/	じゃんけん
5	/	がっこうにあるもの
6	/	たんじょうび
7	/	じゃんけり
8	/	きょうかのぜんせい
9	/	こくごいきょうしつのかきかたに イングリッシュ
10	/	さいしよはぐるの べんきょう

年 組 番
名前



今日は教科の名前を学習しましたよ。では、しましょう。

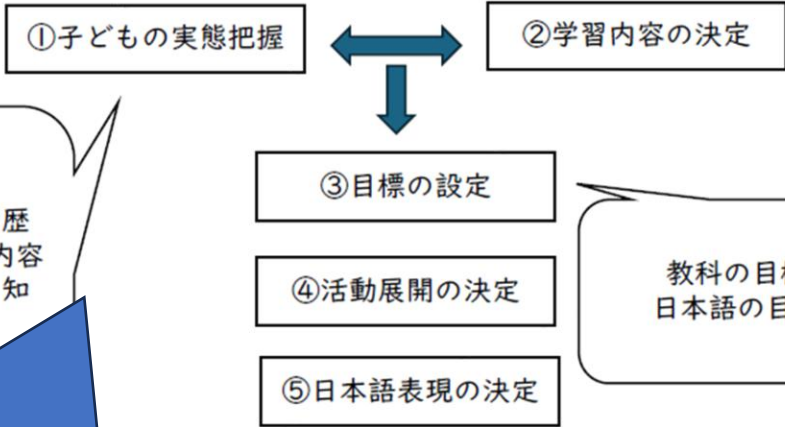
じゃんけん、しよう。
さいしよはぐる、じゃんけん ぽん!

「学びの連続性」

ケ) 外国人児童生徒等の受入れ体制・指導体制に応じて、指導・支援を行うことができる

(5) 研修内容と資質能力の関係

授業づくりの基本的な考え方



日本語の力
母語の力
当該教科の学習歴
当該単元の学習内容
に関する経験・知識・スキル
興味関心
(多面的に)

子どもの実態
在籍学級との学習
の関り等

教科の目標
日本語の目標

セ) 学校内外の生活・学習に結び付けて、日本語や教科の指導・支援、内容(教科等)と日本語を統合した指導・支援をすることができる。

サ) 日本語に関する知識を生かして、子どもの日本語の力に合わせた日本語や教科の指導・支援をすることができる。

くら

① 1. データを比べる
いけん つた
2. 意見を伝える

練習 1月28日から2月4日まで
ハルビンに行きます。

出生地での生活
経験との関連付け

ふく じゅんぴ
どんな服を準備しますか。

③

④

デジタル教材の
操作性を生かした活動

(5) 研修内容と資質能力の関係

3-2 実際の学習活動⑤～生活科・理科との関連～

きょう、_____の かんさつを しました。 形は？

2しゅるいの はっぱが ありました。 色は？ さわった 感じは？

はじめの はっぱは、_____です。

もうひとつの はっぱは、_____です。

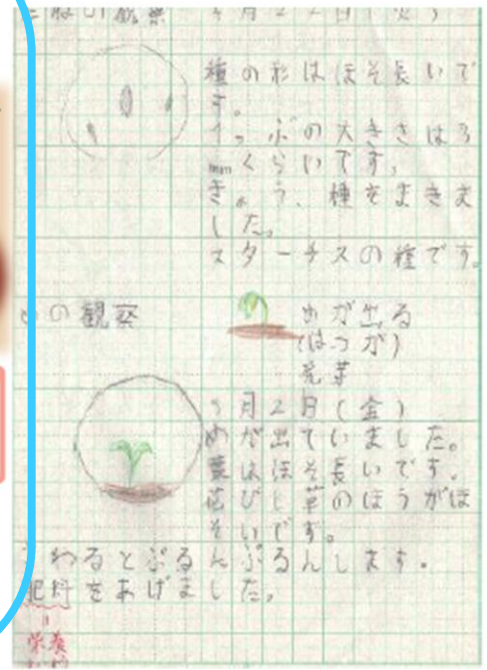
どうなってほしい？

うえる + かえる → うえかえる

<高学年> ▶▶▶
観察記録に記述すべきことが何かを自分で考えながら書く。
日本語表現の支援 + 理科用語の提示 書く

在籍学級の学習で使える言葉・日本語表現・文章モデル

<低学年> ◀◀◀
生活科カードや理科の観察カードに書く内容、文の書き方を学ぶ。 書かせる
モデルづくり



コ) 第二言語習得や教育方法に関する知識を踏まえ、子どもの年齢的な発達の違いを考慮した日本語や教科の指導・支援をすることができる。

→ 書いた(≠書けた?) 自信

C: これ、持って帰る、いいですか?
T: ○○先生に見せるの?
C: うん。

観察記録ノート

- ・したこと (種をまく、水をやる、植え替える等)
- ・観察したこと
 - ・色 ・形 ・大きさ ・手ざわり ・変化
 - ・前後のちがい、種類によるちがいを比べる
- ・理科の言葉
 - 種(種子)・発芽・子葉・葉・根・茎・肥料

(5) 研修内容と資質能力の関係

第3回

アイデンティティと日本語学習を考える

- ① 関係性を広げる
- ② ライフコースを考える
- ③ 資源を活かす
- ④ エージェンシーを育む
- ⑤ 市民性を育む
- ⑥ 場をつくる

どのようにことばの教育に結びつけられるでしょうか。

視



イ) 子どもの心理的状況を文化適応や家庭の状況に関連づけて理解することができる。
夕) 子どもの母語、母文化、アイデンティティを尊重し、学級・学校・地域における社会参加を促すことができる。

子どもとの信頼関係構築

・理想像（児童生徒にとっての安全基地）

・言語はその個を象るアイデンティティの一つ



(6) グループワークの具体的なタスク

第1回のワーク

ワークの流れ

さ	か	あ
し	き	い
す	く	う
せ	け	え
そ	こ	お

前作業 【個人】 単語作り

本作業 【グループ】

あ行・か行・さ行の15文字のみを使って、できるだけたくさんの単語を作ってください。
例) あか, きく (聞く・菊)
*品詞は問いません。
*後でブレイクアウトルームで共有しますので、各自メモをとっておいてください。

後作業 【全体】 気づきの共有とまとめ

第2回のワーク

【ワークの進め方】

自己紹介してください (1人30秒程度)
子どもとの関わり方、今担当している子はどんな子か?
*書記が画面共有をしながら、メンバー名を記入してください。

- 以下の①②について話し合い、記入してください。
②は最後にメインルームで取り上げ、講師・報告者とのQAとします。
- ① 2つの事例報告から新たに学べたこと、参考にしたいと思ったこと (②「自己紹介」と①で15分)
 - ② 日本語と教科の統合学習について、まだよく分からないことや疑問 (15分)

グループ

前作業

- ROOMに入ったら、NO.を確認してください。
- Googleスライドのうち、自分たちのROOM NO.のスライドを使ってください。1グループに1枚用意してあります。
- 簡単に自己紹介してください。
例) 子どもとの関わり方今担当している子はどんな子か?
* 1人30秒程度で!
* 書記が画面共有をしながら、メンバー名を記入してください。

本作業

【グループ】 作った単語の共有・分類・確認

谷先生の講義
坂柳先生の
事例報告

- 順番に、自分が前作業で作成した単語を紹介してください。
* 書記が画面共有をしながら、メモしてください。
- 話し合いながら、特に「**小学校低学年向き**」だと思うものは**赤**、「**中学生向き**」は**青**に色を変えてください。いくつでも結構です。

ROOM <1> メンバー:

①について

- 2つの事例報告から新たに学べたこと、参考にしたいと思ったこと (②「自己紹介」と①で15分)

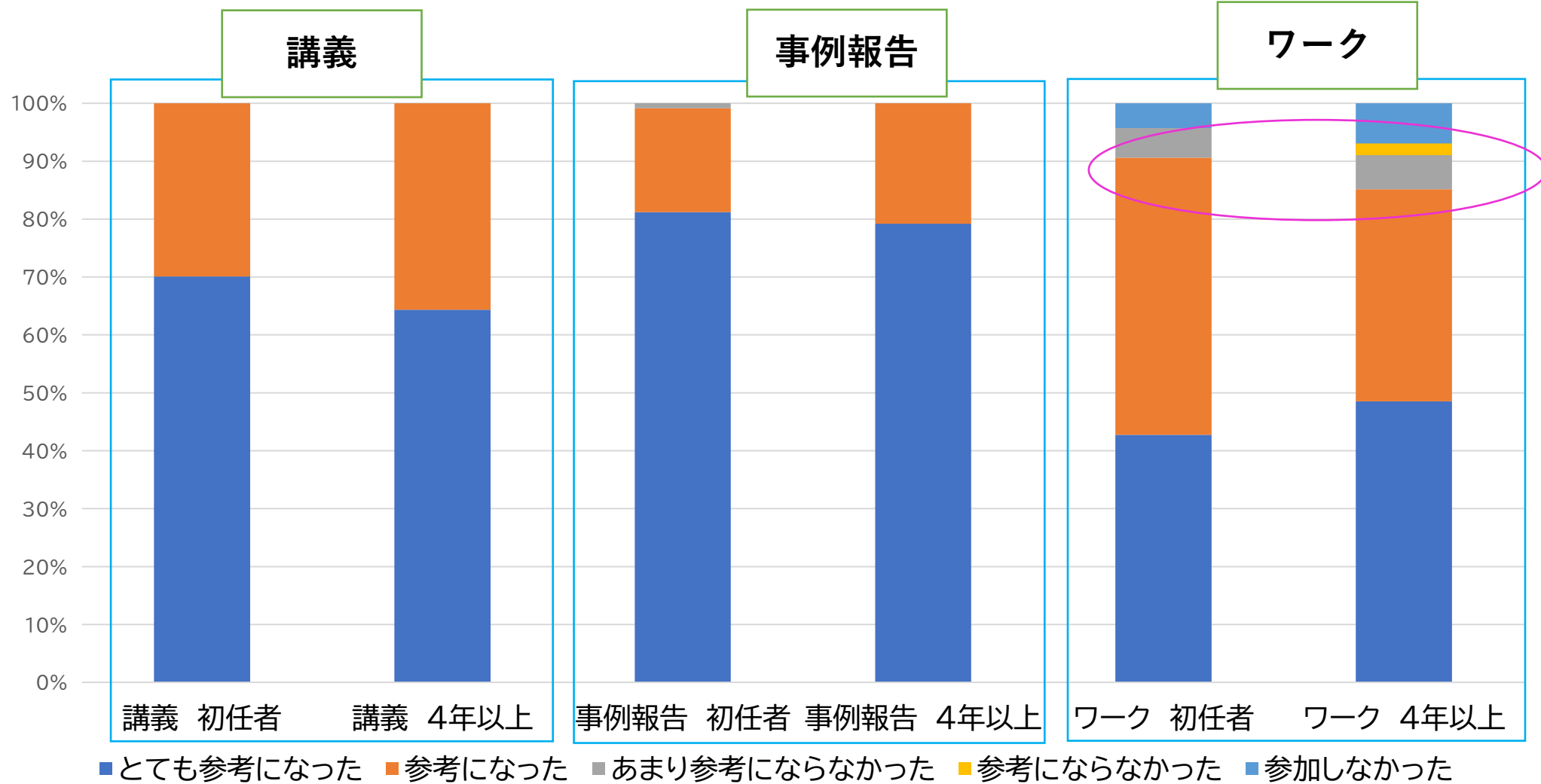
②について

- 日本語と教科の統合学習について、まだよく分からないことや疑問

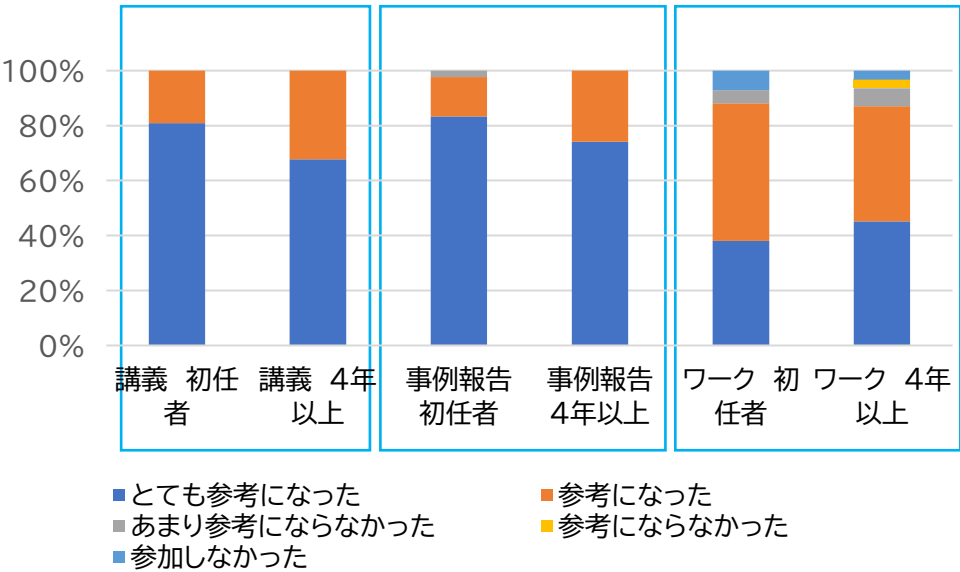
3 研修の成果 (1)アンケート結果から

問い:研修が「参考になったか」

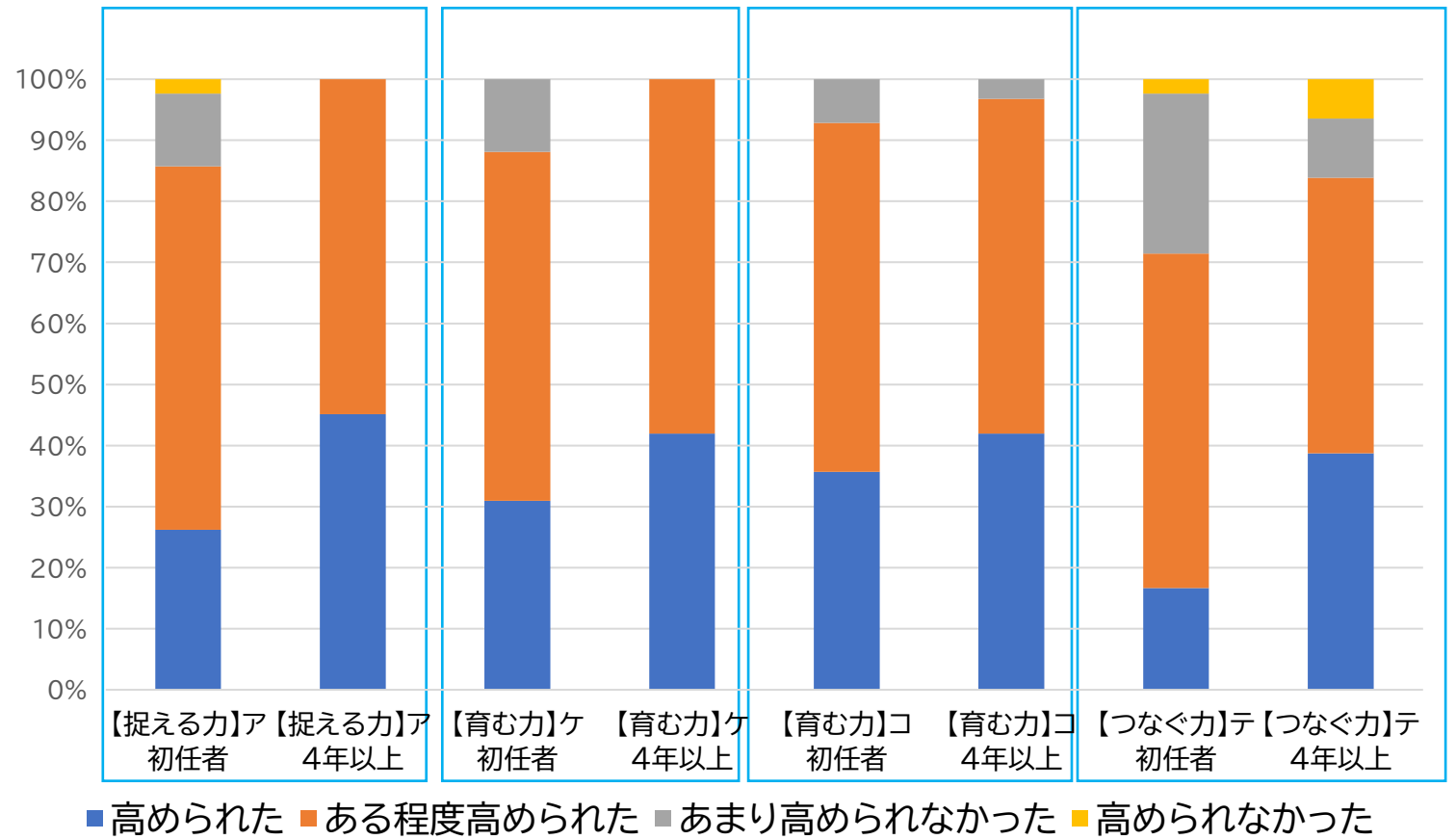
全3回の集計 初任と4年以上の比較



(1) アンケート結果から

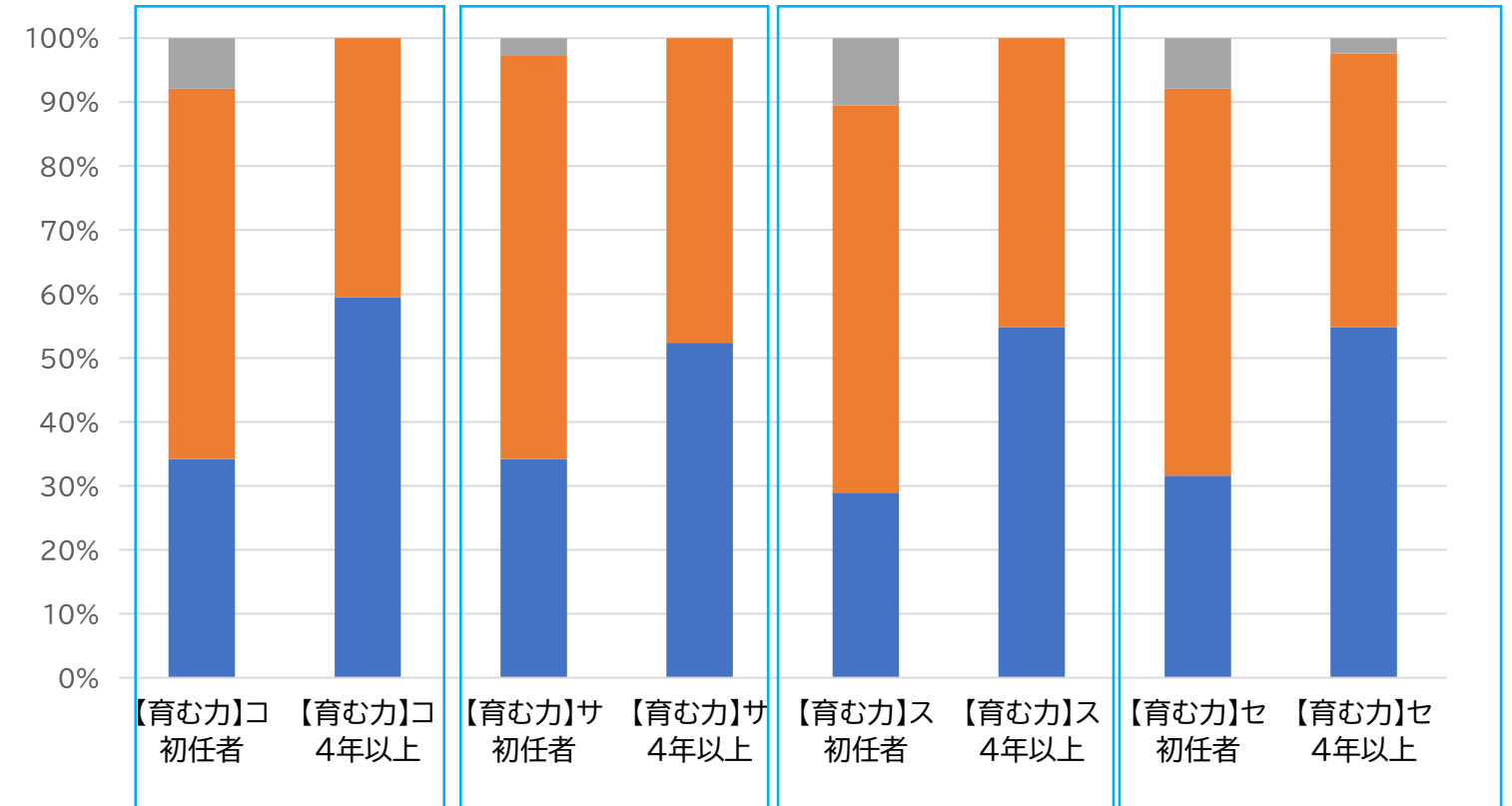
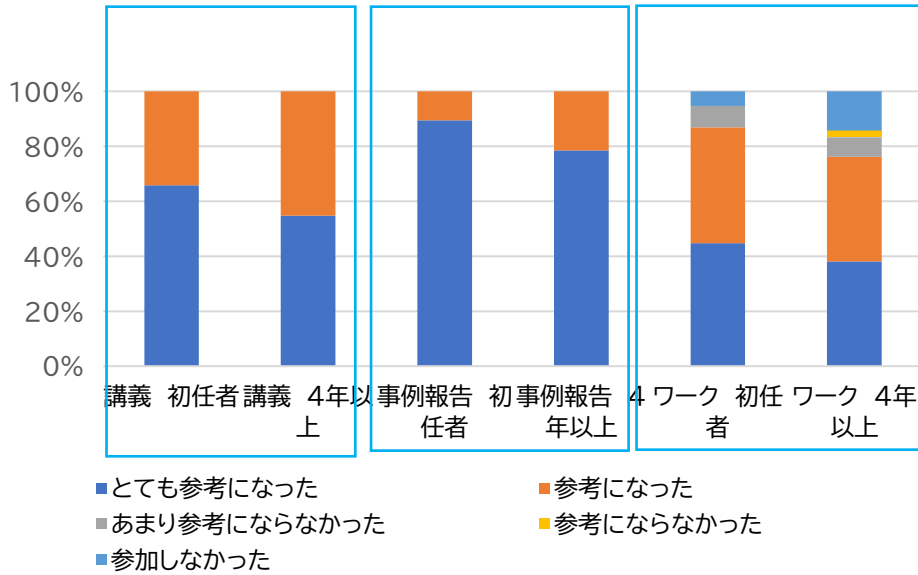


目当てとした資質能力高められたかどうかの自己評価



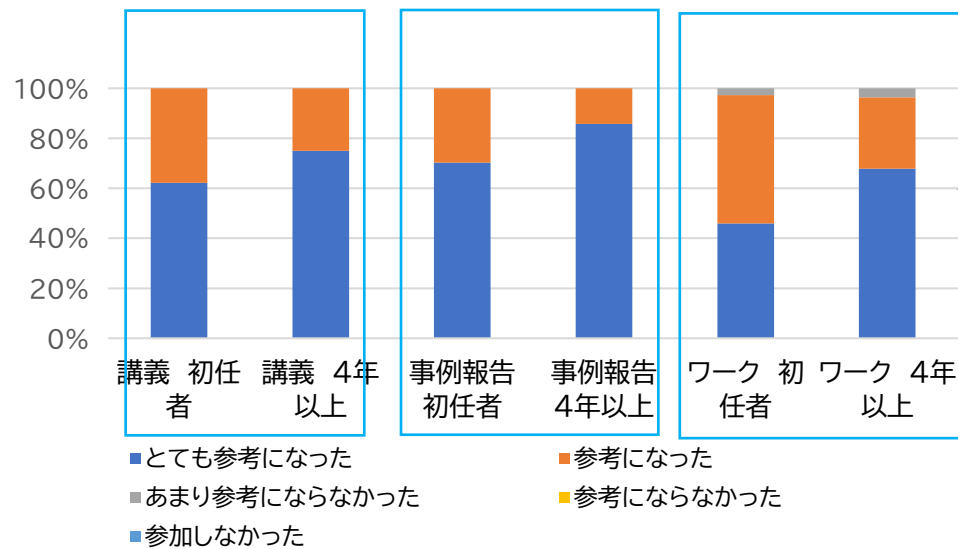
(1) アンケート結果から

目当てとした資質能力高められたかどうかの自己評価

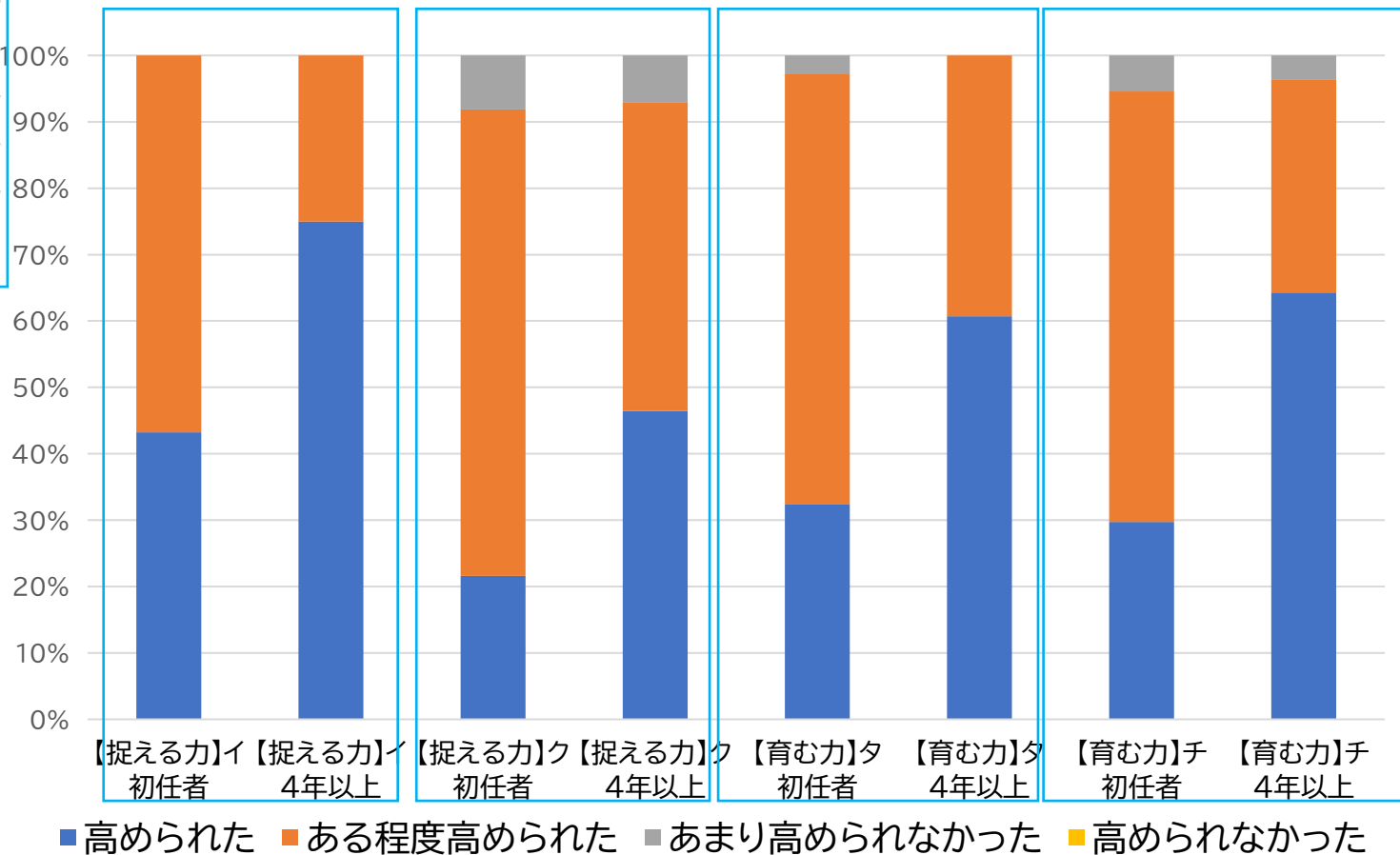


■ 高められた ■ ある程度高められた ■ あまり高められなかった ■高められなかった

(1) アンケート結果から



目当てとした資質能力高められたかどうかの自己評価



(1) アンケート結果から

自由記述より(抜粋)

A,B,C)【育む力】【捉える力】が意識された記述

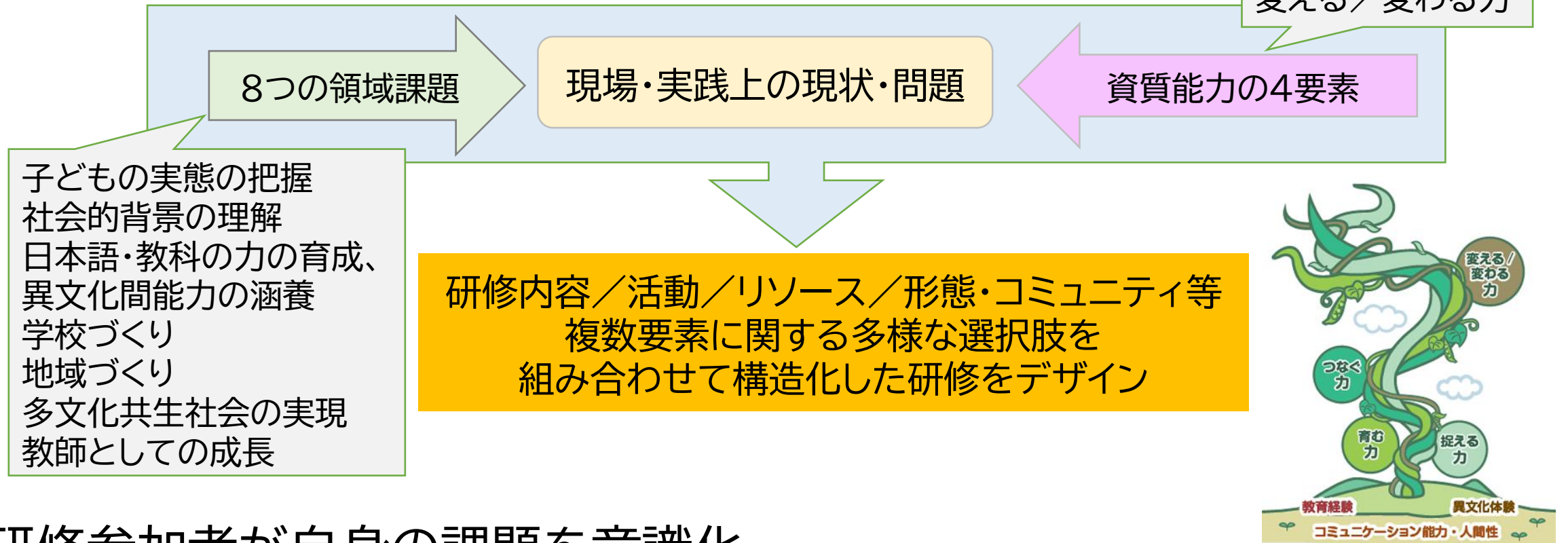
- A) 発達段階に応じた指導を心がけていますが、同学年でも環境等により、ひとりひとり違うので難しさを感じます。初期段階から教科につなげることを意識した学びを取り込んでいきたいです。
- B) 児童を見つめ直して、今、必要な日本語の力と教科の内容を見極めることから始めようと思いました。
そして、日本語指導の学習内容をねらいを持って組み立てるようにしていこうと思いました。
- C) まずはご紹介していただいた実践例を試してみて、そこから児童・生徒に合うようアレンジしていきたいと思います。
- D) つなぐ力において、校内の支援体制構築に向けて、自分一人ではなく、周囲と協力して取り組んでいきたい

D) 連続性を編み出す環境に目を向けた記述

(2)「豆の木モデル」に基づく研修の可能性

- ・研修のめあての明確化
- ・研修デザインの構造化

捉える力
育む力
つなぐ力
変える／変わる力



- ・研修参加者が自身の課題を意識化
- ・実践の次のアクションの具体化(現場の課題の解決に向けて)

本研修に関する資料

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット(2025) Webサイト

・研修事業 2025年度研修 資料・および報告書

<https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/project03/>

・研修動画「初めて教える人のための田中先生と学ぶ子どもの日本語指導」

<https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/resource/content1.html>

参考文献

- ・公益社団法人日本語教育学会(2020)『文部科学省委託2017-2019年度 外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業 外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」のガイドブック』<https://mo-mo-pro.com/report>
- ・齋藤ひろみ・和泉元千春・市瀬智紀・浜田麻里(2020)「多文化社会が求める教師の資質・能力—外国人児童生徒等教育の担い手に焦点を当てて—」『子どもの日本語教育研究』第3号、1-17
- ・齋藤ひろみ(2022)「日本語教育の現場で求められる対応力—子どもを対象とする教育現場・支援現場で」『日本語教育』181号、35-50
- ・原瑞穂・谷啓子・河野俊之・見世千賀子・小西円・工藤聖子・市瀬智紀・米本和弘・齋藤ひろみ(2024)「子どものことばの教育に関する研修の内容・構成の検討—学校教員・地域 支援者を対象とする研修のアンケートから—」『2024年度日本語教育学会秋季大会予稿集』320-325
- ・齋藤ひろみ・見世千賀子・小西円・米本和弘・谷啓子・原瑞穂・工藤聖子(2025)「高等学校における日本語教育の現状と担当者養成—現場の多様性に応じた新制度の実装化に向けて—」『日本語教育』77-92